

## 令和3年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 <b>誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育</b> 」の実現のために学園の総力を集結し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。
教育目標	<b>誠実</b> (1) 思いやりを持ち、他者への感謝の気持ちを忘れない生徒の育成 (2) 確たる自分を持ちながら、他を認める精神を併せ持つ生徒の育成 (3) 挨拶を軸とした礼儀作法の涵養による健全な心身の育成 <b>社会</b> (1) あらゆる変化にも柔軟に対応できる人材の育成 (2) 価値観を認め合い、他者と協力しながら問題を解決できる生徒の育成 (3) 主体性を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成 <b>人間力</b> (1) 最善を追い求める姿勢の育成 (2) 物事の本質をとらえ、論理的に考える力の育成 (3) 困難を乗り越えるため創意工夫する力の育成

\*100点満点

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題
<b>1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価</b>						
(1)	学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	85	78	コロナ禍にある中で、これまでに示された経営方針を教職員が共有し実践に努めている。今後は、生徒保護者への発信を細やかに丁寧に行う必要がある。
			教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	78	73	
(2)	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	83	78	校長より「生徒指導の徹底」、中でも重点4項目「挨拶」「清掃」「服装容疑」「スマホ・タブレット」が示され、教職員が具体的に取り組んだ。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	83	78	
(3)	学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	83	78	学年部会は定期的開催され情報共有・共通理解が図られた。あわせて5学年の主任間の共通理解にも取り組んだ。
			学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	90	85	
(4)	学級経営	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	83	78	コロナ禍で行事も減り自宅待機も多かった分、クラス経営は難しい部分もあった。ただし、個別の健康面・行動面・精神面などの把握・生徒理解に努めた。様々な形で細やかに情報発信をしながら活気溢れる学級づくりを期待したい。
			個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	78	73	
			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	83	78	
			学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	75	73	

(5)	学科 経営	学科目標 の具現化	学校目標及び学科目標に沿った学科づくりを行う。	学科目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	80	75	コロナ禍で、専門学科では臨地実習ができないなどの厳しい場面もあったが、学科目標の実現に向け、各学科は様々な特色ある活動や創意工夫がみられた。ただし、生徒募集については今後の大きな課題となった。
				学科会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題や学科行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	88	83	
<b>2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価</b>							
(1)	教育 課程 の編 成	創意工夫 された適 切な教育 課程の実 施	学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	90	83	次年度の新学習指導要領開始に向けた対策委員会を設置し、教育課程の再編成や評価方法について会議を重ねるなど、具体的に取り組んだ。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	88	80	
(2)	教科 指導	わかる授 業の展開 と工夫・ 改善	創意・工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	78	73	コロナ禍においてはオンライン授業や課題学習になり計画通りに進まないことも多かったが、その取り組みによって新たな指導方法や課題も見つかった。研究授業については、なかなか時間の確保ができなかった。新学習指導要領開始の次年度は、積極的に取り組む必要がある。
				教材研究や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うために研究授業に積極的に参観したり、自らも研究授業を実施する。	78	73	
				わかり易い授業を推進するために、生徒による授業評価を定期的に実施する。	80	75	
(3)	特別 活動	ホーム ルーム	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	70	65	昨年度同様、中止や縮小を余儀なくされた行事が多く、生徒にとっては寂しい1年であった。次年度以降は、十分な感染対策をした上で、可能な限り計画通りに進められるよう努力したい。
		生徒会活 動の充実	生徒の自主的・自発的な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極的・意欲的に活動に参加させる。	75	75	
		学校行事 の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を企画運営する。	効果的な学校行事となるよう生徒・保護者の意見も参考にしながら常に工夫・改善を行う。	78	75	
(4)	生徒 指導	基本的生 活習慣の 「見届ける 指導」	中途退学を未然に防ぐための生徒理解に務め、基本的生活習慣の定着や交通マナーを遵守させる、きめ細やかな指導を行う。	欠席のない、はじめあるクラスづくりの実践。	80	75	生徒指導における重点4項目「挨拶」「清掃」「服装容疑」「スマホ・タブレット」が示され、具体的に取り組んだ。全体的には、基本的な生活習慣は確立されているものの、クラス格差も見られ、学年や学科での取り組みも必要である。コロナ禍におけるストレス対応も今後の課題である。
				服装・容儀の徹底指導。(特に頭髮・スカート丈)	85	80	
				挨拶の励行・時間厳守の浸透。(始業時間に授業がスタート)	88	83	
				交通安全指導の徹底(違反者・事故者ゼロを目標)	83	75	
				教育相談・健康相談・悩みの相談など多角的な生徒理解の推進	93	85	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	80	78	昨年度同様、コロナ禍においては校外実習や三者面談などの行事が縮小されたり、自宅待機などもあり、進路指導についても十分とはいえない状況が続いている。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	75	70	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	65	68	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	85	80	コロナ禍においては、これまで以上に思いやりや人権尊重について指導を行ってきており、協力の精神も培われてきている。寮における対人関係や上下関係改善なども今後の課題である。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	75	70	昨年度同様、活動の制限などもあり、生徒・保護者・顧問にとっても不完全燃焼の一年であった。その分、体調管理の大切さや有効な時間の使い方、他者への配慮なども学ぶこともできた。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	78	73	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	70	65	年間を通じてボランティア活動の情報や案内が少なく、積極的な参加は一部にとどまっている。日ごろの清掃時間などを通じて奉仕の心を育成したい。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	80	75	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	73	68	学科の取り組みや個人による格差が大きい。積極的な呼びかけや奨励が必要である。

### 3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	88	83	各分掌業務は各部署長を中心に適切に処理されている。定期的な会議はもちろん、アプリ「teams」も活用しながら相互連携をとっている。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	85	83	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	83	80	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	88	80	全教職員による定期的な校内研修は前半は計画的に実施できた。後半については、新学習指導要領に関する教科会の時間とした。授業研究については、コロナ禍で時間確保が難しかった。
				指導実践力の向上を図るため授業研究及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	68	73	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	73	68	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	83	75	中止になった外部研修会も多く、参加はあまりできなかった。オンライン研修や自己研鑽などで対応した。

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	90	85	評価点は高くなっているが、生徒の清掃への取り組みについては個人格差が大きい。わずかに10分間の清掃時間であるが、大きな課題の一つである。コロナ禍においては、換気も重要な環境整備のひとつである。(CO <sub>2</sub> 計の全教室配置済み)
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	85	80	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	88	80	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	85	78	毎週末の査察において、全教職員で施設・設備の安全点検を実施しているが、確実な点検と記録が求められる。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	90	85	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	93	88	情報管理部が中心となって、教務部と連携しながら成績処理や校務処理について毎年改善されている。オンライン出願についても整備・運用をしていく。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	93	88	
5 開かれた学校づくり							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	75	75	昨年度同様、PTA総会・地区PTAは、新型コロナの影響で中止となり、具体的なPTA活動や保護者との直接的な向き合いができなかった分評価点も低い。ただし、地区PTAについては、オンライン面談も並行して行い、面談率は大きく向上した。また、様々な連絡についても、Gメール配信などに切り替え、一定の効果が得られた。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	65	65	
				自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	68	65	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	PTA関係の会議への参加率向上に努める。	65	63	制限がある中、「南さつま飛び立て高校生事業」や学科、部活動単位で積極的に地域と連携ができた。中学校行事への職員や生徒派遣なども充実していた。
				関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	68	70	
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	70	68	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	70	68	総務部を中心に情報発信に心がけた。学科や部活動などの様々な取り組みや成果は、潜在するものも多く、積極的な発信が課題である。

**【総評】**

**【総評】**

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 学校経営全般について 教育目標を全面的に改訂し、建学の精神である「人間教育」の原点に立ち返り新たな学校経営のスタートを切った。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について コロナ禍における諸教育活動の停滞はもどかしさを実感するも、最低限の成果を上げられたものと思う。</p>
	<p>(3) 組織運営全般について 研究授業を初めとする各研修がフルに回転出来なかったことが一番の課題・問題点となった。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について コロナ感染防止対策やトイレ改修による衛生環境の充実は評価できる。加えて情報インフラの果たす役割も増大している。</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて ホームページ・メール・オンラインと情報発信するも、やはりPTA活動など対面には及ばない現実を実感させられた。</p>
<p>今後の改善策</p>	<p>(1)学校経営全般について 新たな教育目標の具現化を学級経営の土台に据えて全校をあげて精力的に取り組む。</p>
	<p>(2)教育活動全般について 新教育課程の導入と生徒指導の充実、学校行事の実施は今年度の大きなテーマである。</p>
	<p>(3)組織運営について 個々のスキルアップの為の自己研鑽・研修の必要性が求められる。新たに設置される「学校戦略支援室」の活躍が期待される。</p>
	<p>(4)教育環境全般について 生徒・教職員の美化・省エネへの意識向上が強く求められる。又、個人情報保護についての再認識も必須事項。</p>
	<p>(5)開かれた学校づくりについて ホームページや連絡ツールの有効活用を継続しつつも、PTA活動・生徒募集活動を充実させていく。</p>